



いわゆる脳性麻痺アテトーゼの運動障害 －中核例－

- 周生期低酸素性脳症による視床・基底核・大脳白質病変例の運動障害
- 股屈曲過活動・股伸展荷重制限に共収縮制御障害が共存する

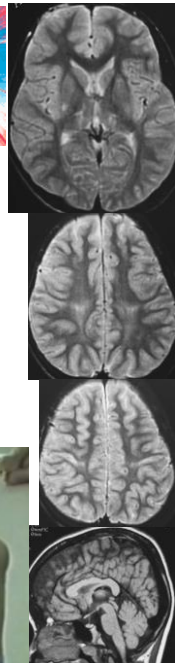


1

成熟児仮死、視床(VL核)・被殻・(中心溝近傍病変)

- 安静時は不随意運動なし
- 回旋ハイハイ (アテトーゼに特徴的)
- 肩水平内転の困難
 - ・振戦
 - ・反抗

Athetosis代表例



左が悪い

5y2m



7y5m



2



3



- 荷重時股伸展がわずかにしかできない
- これに対し、膝伸展・体幹側屈回旋は十分できる。ぶん回し手支持も十分できる

4

6y5m

膝歩き

左が悪い



5



6



5w 左分焼麻痺 40w HIE 独歩4y8m 重度ID

体幹回旋 左向き
肩先の後退
強い股屈曲
運動途上の固まり freeze
固まり 虚脱
背臥位で左向き 腹臥位で右向き
強い体幹屈曲
過大な体幹側屈

24d

- ・肩先後退と股屈曲の緩まない筋過活動
- ・過大な体幹運動
- ・運動の固まりと虚脱の併存

固まり感・虚脱感とその転換を感じる事が診断には必要

7

3m 股屈曲と股伸展外旋の共存

手が前に出ない 肩先の後退で固まる

肘屈・手背と肩内旋・肘伸展の四肢前出しの共存

- ・股屈曲過活動+股伸展荷重制限の肢位と常時筋収縮状態(下肢・上肢・体幹)の共存
- ・強い肩先後退のため手が前に出にくい。その肢位で固まることが多い
→体幹回旋・側屈 →肩回旋の四肢前出し
→四肢の反抗運動
- ・緩徐な頸運動はとれず、固まりながら動く。また、過度な回旋後屈位(overshoot)で固まる

持ち上げ時の頸後屈×虚脱

過度な頸回旋後屈で固まる 右が悪い
上肢斜め前出し位で固まる
writhing期の顔の向き癖の過大

頸虚脱後に回旋伸展位で固まる

8



9



10



11



12



13



14



4y3m

右が悪い

- 股屈曲
- 肩の引け
- 体幹回旋
(股屈伸ではなく)



回旋はいはい
(股屈曲固定)

- 体幹回旋で前進
- 腰椎伸展で骨盤前出し→膝過伸展
- 上肢は後に引けて挙上

15

膝歩き



- 股伸展は左の方がいい

右が悪い

弱い回旋ハイハイ



- 股伸展は左の方がいい→左凸側屈が強い

Frozen gait



- 側方に出す上肢は体幹側屈を増すために使っている 綱渡りの棒
- 左の方が歩幅が広い。膝反張は左の方が強い。左凸側屈の方が強い

16



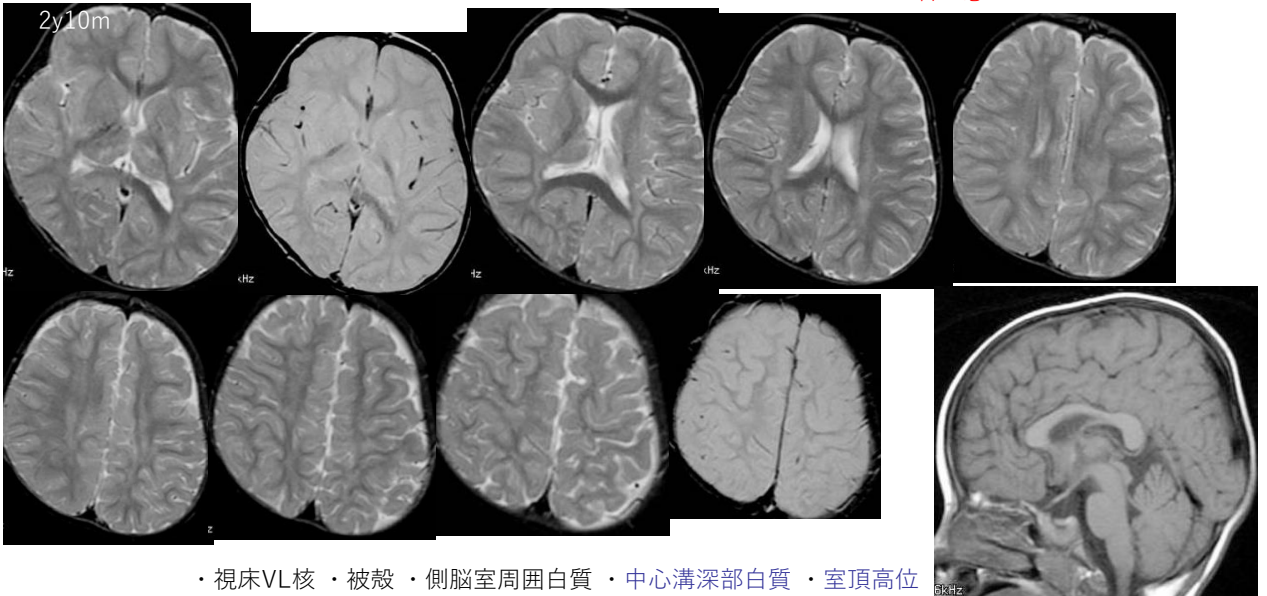
右が悪い

- 肩の引け→行きつ戻りつ (avoiding reaction)
- 水平内転が困難→体幹回旋・前傾・側屈で代償
- 手指の過屈曲

17

・満期HIE・四つ這い 2y5m・11歳では左杖歩行可・知的障害なし→正職員

右が悪い



・視床VL核・被殻・側脳室周囲白質・中心溝深部白質・室頂高位

18



19



20